新 潟 県 の 地 震 概 況　令 和 ８ 年（2026年)10月

令 和 ８ 年 11 月 10 日
新 潟 地 方 気 象 台

【10月の地震活動概況】

この期間、県内の震度観測点で震度１以上を観測した地震は４回（最大は震度２）でした。このうち、新潟県とその周辺（図１）で発生した地震で、県内で震度１以上を観測した地震は１回でした。（「期間内に発生した主な地震」を参照）

【10月に新潟県周辺で発生した地震】

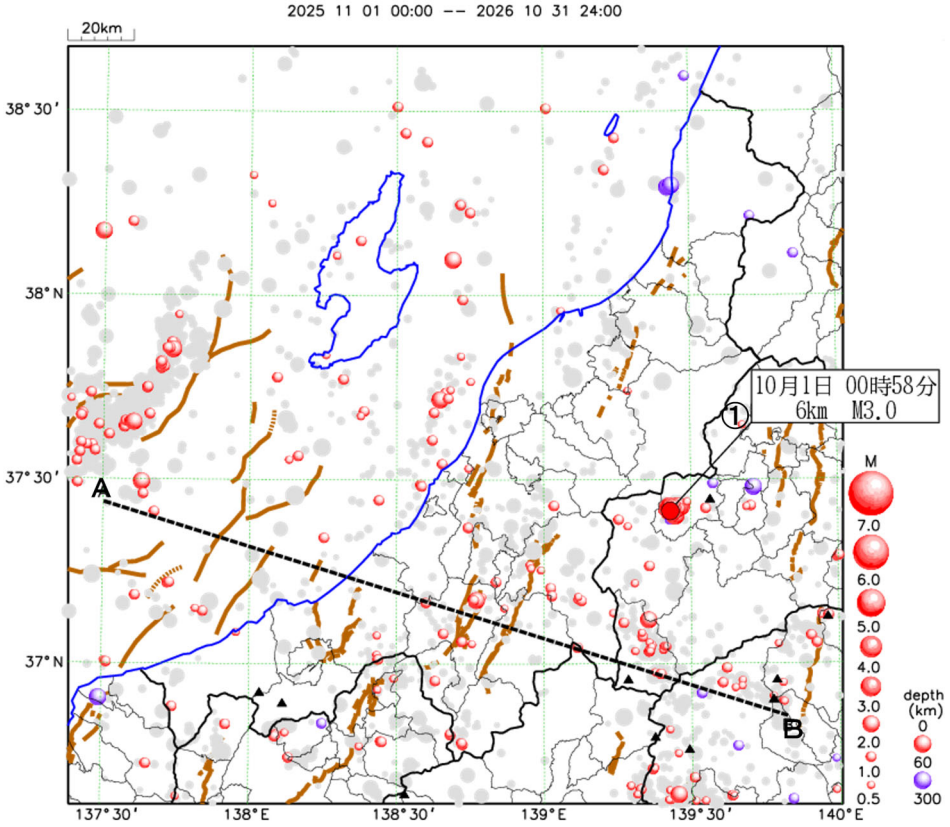


図１　震央分布図（深さ0～300km、M0.5以上）

※過去１年間の地震を示す。令和８年10月に発生した地震を赤又は青、それ以前はグレーで示す。茶色線は地震調査研究推進本部で長期評価されている活断層を示す。図中の▲は活火山を示す。

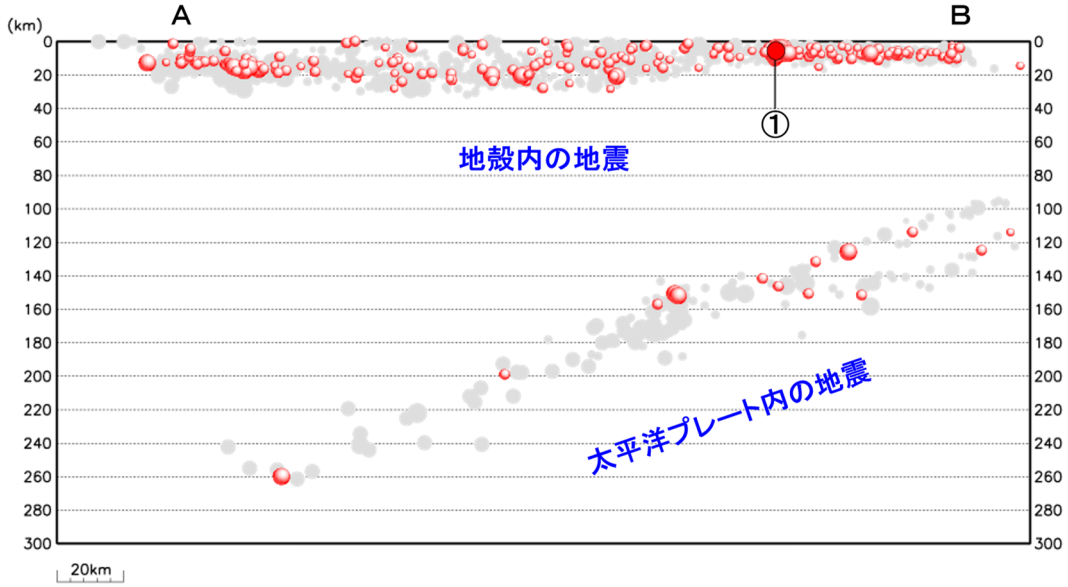


図２　断面図（図１の領域内を A-B 面で投影：縦軸の深さは 1/2 の縮尺）

【期間内に発生した主な地震】

①　1日00時58分　福島県会津の地震（深さ６km、M3.0）により、福島県および新潟県で震度１を観測しました。新潟県では阿賀町で震度１を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。

②　1日21時27分　千葉県北東部の地震（深さ51km、M5.2）により、茨城県および千葉県で震度３を観測したほか、東北地方から関東甲信地方、新潟県および静岡県にかけて震度２～１を観測しました。新潟県では南魚沼市で震度１を観測しました。この地震は太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生しました。

③　25日11時09分　小笠原諸島西方沖の地震（深さ507km、M6.8）により、小笠原諸島で震度３を観測したほか、東北地方から関東甲信地方、新潟県および静岡県にかけて震度２～１を観測しました。新潟県では南魚沼市で震度１を観測しました。この地震は太平洋プレートの内部で発生しました。このように太平洋プレートの深いところで規模の大きな地震が発生すると、震央に近い場所だけでなく、震央から離れた太平洋側の広い範囲で揺れを観測する傾向が見られます。

④　29日00時07分　千葉県北東部の地震（深さ52km、M5.5）により、千葉県で震度５弱を観測したほか、東北地方から関東甲信地方、新潟県および静岡県にかけて震度４～１を観測しました。新潟県では南魚沼市で震度２を観測したほか、刈羽村で震度１を観測しました。この地震は太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生しました。

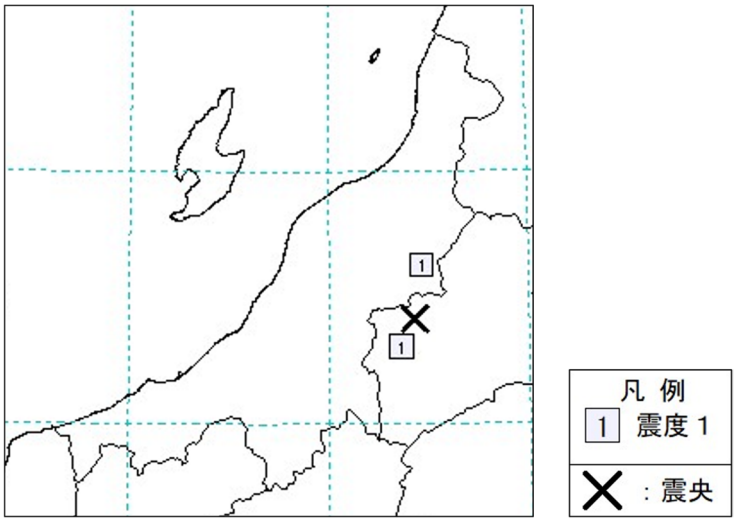
【新潟県内で震度１以上を観測した地震】

期間　2026年10月1日～2026年10月31日

地震の発生日時（年/月/日/時:分）　震央地名	緯度	経度	深さ	規模	全国最大震度
各地の震度　＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点					
①　2026年10月01日00時58分　福島県会津 震度１：阿賀町豊川＊	37°24.8'N	139°25.8'E	6km	M3.0	1
②　2026年10月01日21時27分　千葉県北東部 震度１：南魚沼市六日町	35°44.5'N	140°41.7'E	51km	M5.2	3
③　2026年10月25日11時09分　小笠原諸島西方沖 震度１：南魚沼市六日町	27°46.7'N	139°55.7'E	507km	M6.8	3
④　2026年10月29日00時07分　千葉県北東部 震度２：南魚沼市六日町 震度１：刈羽村割町新田＊	35°43.3'N	140°42.9'E	52km	M5.5	5弱

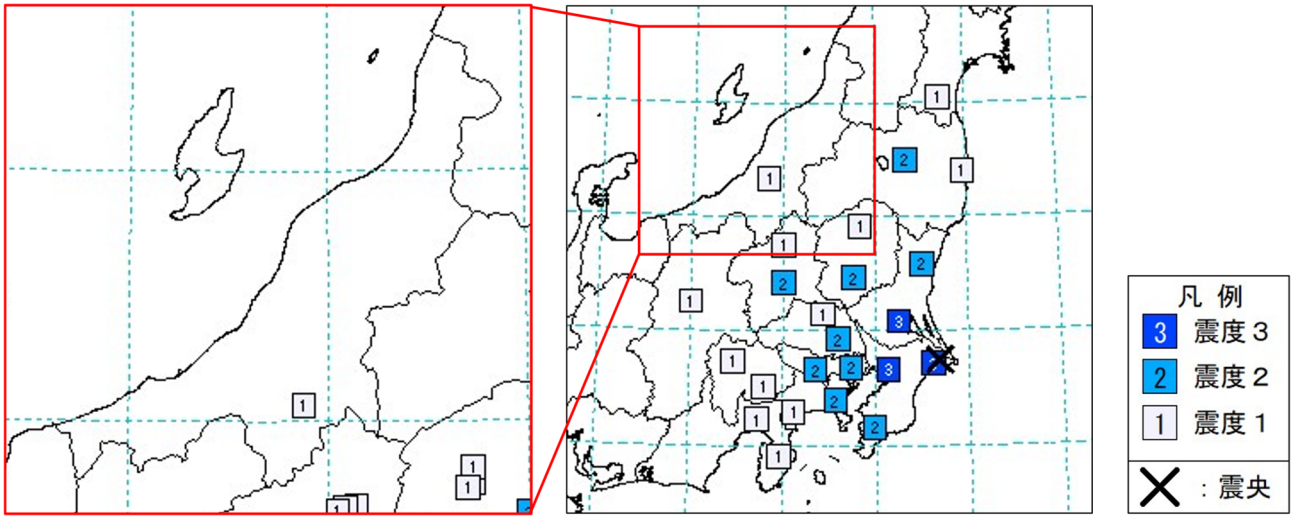
【震度分布図】

①　1日 00 時 58 分　福島県会津の地震



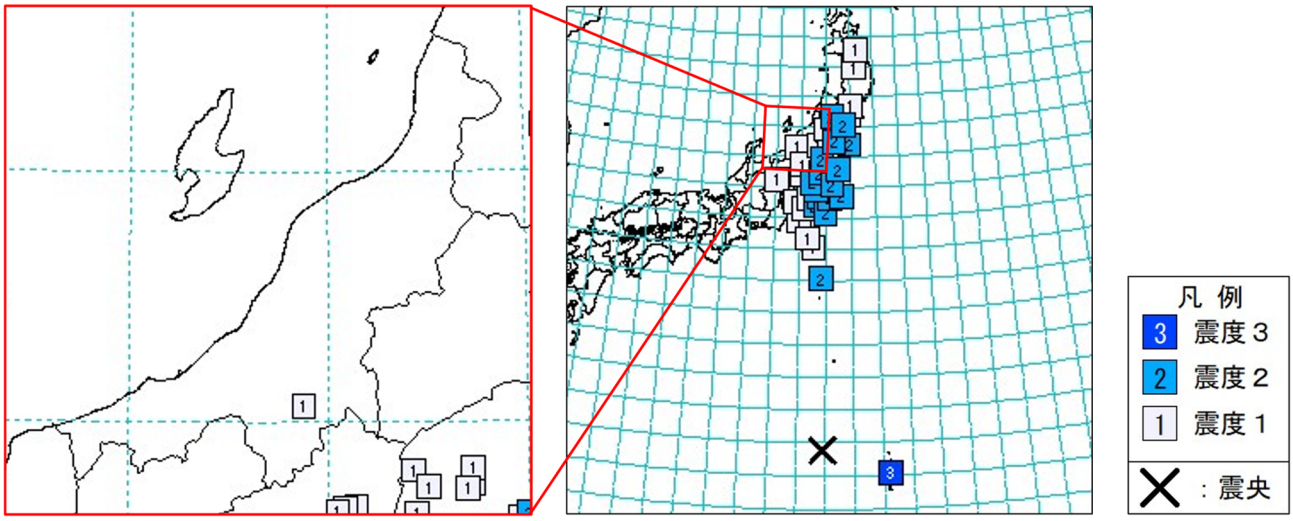
観測点別震度分布図

②　1日 21 時 27 分　千葉県北東部の地震



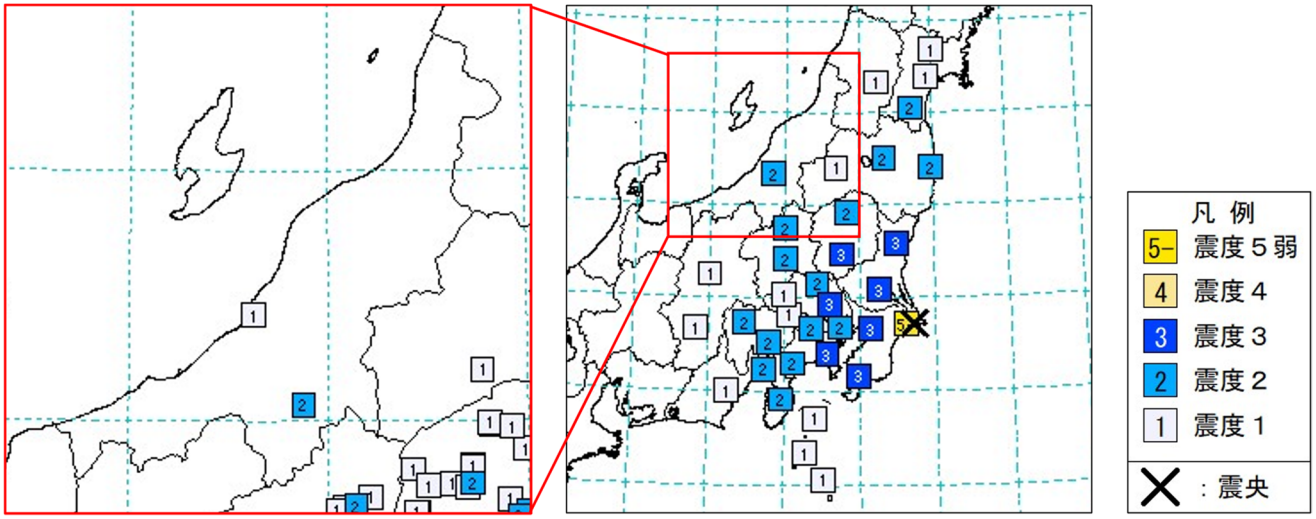
観測点別震度分布図　　地域別震度分布図

③　25 日 11 時 09 分　小笠原諸島西方沖の地震



観測点別震度分布図　　地域別震度分布図

④　29 日 00 時 07 分　千葉県北東部の地震



観測点別震度分布図　　地域別震度分布図

【新潟県内で最大震度１以上を観測した月別・震度別地震回数表】

年	2025 年		2026 年										
月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	合計
震度 1	1	6	5	2	1	2	0	1	0	2	3	3	**26**
震度 2	4	3	0	0	2	5	0	3	3	0	0	1	**21**
震度 3	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1	0	0	**7**
震度 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
合計	**5**	**10**	**5**	**2**	**3**	**8**	**1**	**7**	**3**	**3**	**3**	**4**	**54**

【防災教育に使える副教材・副読本ポータル】

気象庁では防災教育にご利用いただけるeラーニング教材を公開しました。自治体職員向けの研修や、自治会の研修等にぜひご活用ください。ワークシートも附属しています。

・eラーニング「地震・津波から命を守る」

地震・津波から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-svd-el/jishin/jishin-tsunami.html

・eラーニング「火山災害から命を守る」

火山災害から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-svd-el/kazan/kazan.html

※この他にも「防災教育に使える副教材・副読本ポータル」サイトで有効な教材を各種公開しています。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/fukukyouzai/index.html

注）利用にあたって

・資料は速報であり後日の調査により変更されることがあります。

・気象庁では地震の震源、マグニチュード等を算出するにあたり、国立大学法人などの関係機関から地震観測データの提供を受け(注１)、文部科学省と協力して処理を行っています。
また、震度の情報は、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供された観測データを含めて発表しています。

（注１）本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

・この地震概況は新潟地方気象台ホームページの地震解説資料・地震概況のページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/niigata/jishin/jishin_kaisetu_index.html

・資料についての問い合わせ先：新潟地方気象台電話：025-281-5872

【地震・津波一口メモ】

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

１．「北海道・三陸沖後発地震注意情報」とは

北海道から東北地方の太平洋沖では、大きな地震の後に、その影響でさらに大きな地震が続いて発生する可能性があると考えられています。「北海道・三陸沖後発地震注意情報」は、大きな地震の後にさらに巨大な地震が発生する可能性が普段より高まっていることをお知らせするとともに、地震や津波への備えの再確認を呼びかける情報です。

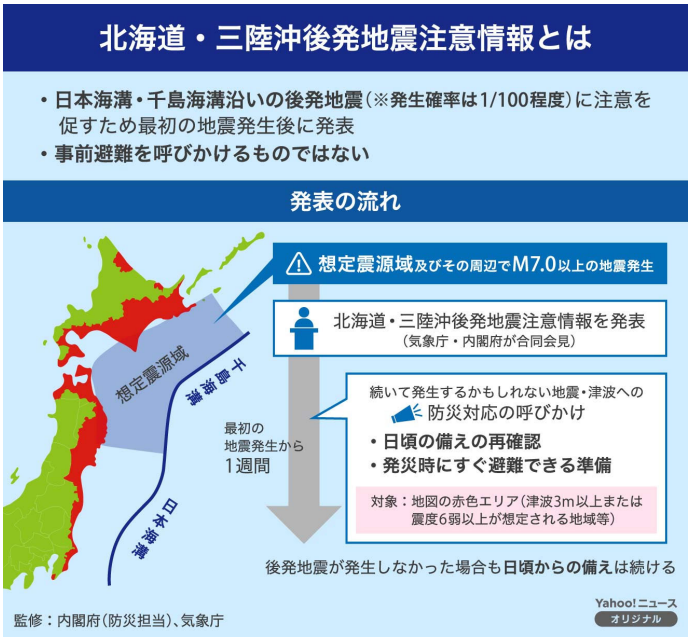


図３　発表の流れ

２．情報発表時に防災対応をとるべき地域

情報が発表された際に防災対応をとるべき地域は、図４のとおりです。これらの地域は、「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」において推計した巨大地震による震度分布図及び津波高において、震度６弱以上の揺れ又は津波高３ｍ以上の津波が想定される地域です。これらの地域では、情報発表に伴い、情報の内容やとるべき行動等が呼び掛けられます。詳しくは防災庁のページをご覧ください。
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/index.html

３．想定される被害

北海道から東北地方の太平洋沿岸では、巨大地震により 10～30m 級の巨大な津波が発生するおそれがあります。特に北海道東部や三陸沿岸では、建物を超える高さの津波が短時間で到達する可能性があるため、早めの避難が重要です。

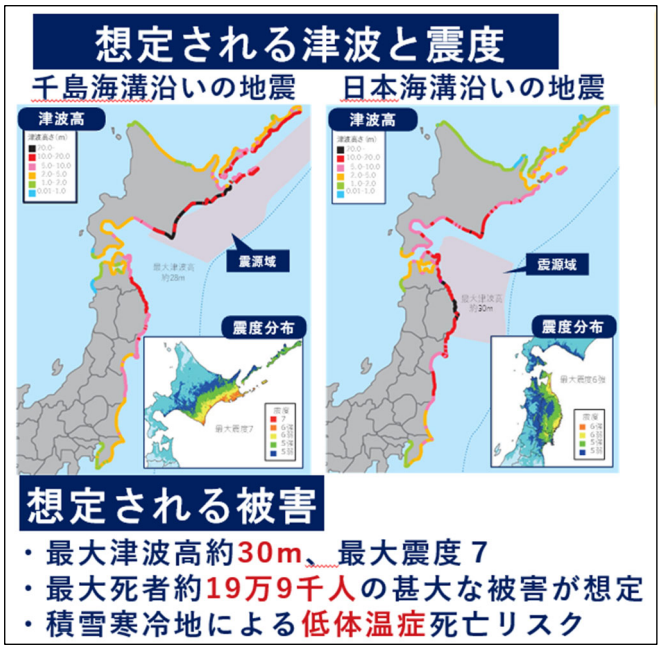


図４　被害の想定
（中央防災会議（2022）より引用）

４．発表されたときの防災対応

情報が発表された際に防災対応を適切にとれるようになるには、日頃からの地震への備え（事前防災対策）を徹底することが大前提です。その上で「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表時には、１週間程度、地震への備えを再確認しましょう。

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された際には、大規模地震の発生可能性が平常時よりも相対的に高まっていることを踏まえ、揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした際に、直ちに津波から避難できる態勢の準備を行いましょう。



図５　日頃からの地震への備え

５．日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震　事前の備えで命を守る！

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された際の行動等について説明した小冊子は、図６のとおりです。ぜひご覧下さい。



図６　小冊子

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nceq_manga/nceq_manga.pdf

参考資料

・日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（防災庁）
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/model/index.html
・日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ（防災庁）
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/WG/index.html
・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策（防災庁）
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/index.html